

令和2年度石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議 参加者説明要旨及び意見交換等概要

日 時：令和3年3月1日（月）
午後2時～午後3時30分
場 所：宮城県石巻合同庁舎大会議室

議 事

(1) 石巻地域の雇用情勢について（石巻公共職業安定所）

令和3年1月の状況について

- ・有効求人倍率は1.86倍となっており、前年同月差は0.13ポイント、前月差は0.10ポイント下回っている。
- ・新規求人数は1,868人で前年同月比が-8.0%（163人減少）、前月比が57.8%（684人増加）となっている。
- ・月間有効求人数は4,505人、前年同月比-7.5%（367人減少）、前月比は-4.1%（195人減少）。
- ・新規求職者数は729人、前年同月比が-4.2%（32人減少）、前月比は71.9%（305人増加）。
- ・昨年12月に当所で新型コロナウイルスの感染者が発生してしまい、業務等の制限により極端に求人関係の手続きが減少したため、1月にその分増加したと思われる。
- ・月間有効求職者数は2,419人、前年同月比が-1.2%（30人減少）、前月比が0.8%（19人増加）で大きく変化は無かった。
- ・求人・求職のバランスについて管内の有効求人倍率が1.86倍に対して県内が1.16倍とかなり高い状況であるが、職種にばらつきがあり、事務的職業の求職は多いが、製品製造・加工処理や土木、保安警備等はかなり少ない状況となっている。非常にバランスが悪く、人手不足の状況である。
- ・新規高卒向けの求人数は828人で内定率は90.5%となっている。内定率については、安定所を利用した学生について算出している。

(2) 令和3年3月卒業予定者の就職内定状況について

資料配付のみで説明は省略。

(3) 令和3年度「地学地就」産業人材育成事業について（宮城県経済商工観光部産業人材対策課，宮城県教育庁高校教育課）

■産業人材対策課

- ・令和3年度「地学地就」産業人材育成事業についてはこれまで産業人材対策課で行ってきたものづくり企業コーディネーター設置事業と教育庁で行ってきた地学地就連携コーディネーター事業を統合したものである。
- ・ものづくり企業コーディネーターについては今年度まで地学地就連携コーディネーターとともに県内のものづくり企業と高校生との就職マッチングを支援してきた。今後、少子化でますます人口減少することが明らかとなっており、県内のものづくり企業の魅力をいかに県内高等学校に知ってもらおうかということ考えた場合に、引き続き両者の橋渡しを行うコーディネート事業が必要と考えている。
- ・令和3年度以降については高校教育課事業と統合して就職定着及びキャリア教育を推進しながら地元企業とのマッチングを行っていきたい。
- ・今までどの大きな変更点としては、これまでものづくり企業コーディネーターが企業訪問を行い、産業動向や求人等の情報収集及び企業の採用相談について支援してきた。このような活動に加えて高校でも勤務することになり、進路指導教員を通じた情報収集、就職スケジュールや生徒の意向等を聞いてマッチングをしていくなど企業と高校における両方の活動となっていく。

■高校教育課

- ・事業説明の前に令和3年3月卒業予定者の内定状況について説明する。令和3年1月末現在の就職内定率は90%程度となっており、新型コロナウイルス感染症流行の影響により就職活動が1月後倒しになっても好調な結果であると認識している。
- ・今年度まで行ってきた地学地就連携コーディネーター事業においては、県内の就職者の多い学校及び支援が必要な学校に対し、2校兼務で24校について学校関係者や民間企業の人事担当だった者等を選定し、配置してきた。
- ・令和3年4月からは新しい事業として高校生のもづくり企業への就職支援、職場定着、早期の離職防止を行うことになるが、目的については前事業と変わらない。
- ・本県の高校生の離職率は昨今40%程度となっており、問題視されているところである。そのような状況の中で来年度からは11名のコーディネーターの配置を検討している。これまでは学校に配置しており、生徒、保護者、高校の就職担当に対する支援が大きなウェイトを占めていた。4月以降の新規事業については、管内のもづくり企業を中心に採用情報や企業情報を収集して学校に繋ぐということが大きな役割となっていく。したがって学校に配置をするものの、学校そのものに対して就職支援をすることに関してはこれまでよりも希薄になるところがある。

(4) 令和2年度オンライン地元企業説明会の振り返りについて（宮城県東部地方振興事務所）

- ・オンライン地元企業説明会については、新型コロナウイルス感染症流行の影響により減少した管内高校生と企業との交流についてオンラインを使って企業説明会を開催することにより、相互理解の促進を図り、管内高校生の地元企業就職を支援するため開催した。
- ・開催の経緯は、石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議の担当者レベルの会議となっている石巻地域産業人材育成・定着推進会議により新型コロナウイルス感染症流行の影響について現状と課題を整理した上で、関係機関と連携を図りながら、企画・立案し、当プラットフォームへ意見を伺った上で実施することになった。
- ・オンライン説明会は11月9日、11日、13日の全3回にわたり開催。開催前には参加企業へオンライン会議システムの使用方法や効果的な企業PRの方法について述べ6社に専門家を派遣した。
- ・結果は、参加企業は6社（うち応募は23社）で参加校は石巻商業高等学校及び宮城県水産高校の2校、生徒は3人だった。
- ・結果を踏まえ、各高校担当者に対し、アンケート調査を実施し、考察した。
- ・アンケート結果から令和2年10月末時点での未内定者が167人いることが分かり、オンライン説明会の参加者が3人だったことは、大変少ない結果であったことが窺える。
- ・参加生徒が少なかった理由については1点目が説明会開催時期は新型コロナウイルス新規感染者数が減少していた時期であったため、各校独自の応募前職場見学など従来の対面の取組ができたこと、2点目として内定が得られなかった生徒に対してきめ細かい就職支援をすることにより、次の応募先を決めていた生徒がいたこと、3点目として1回目の就職試験で内定が得られなかったことにより落ち込んでしまい、次の就職活動に動き出せない生徒がいたことが考えられた。また、担当教員の皆様からは、対面型による実施のほうがオンラインよりも効果的であるとの声が多く、結果として、当説明会に関する生徒への周知が簡易なものにとどまり、積極的な参加を働きかける状況とはならずに参加が少ない結果となってしまったことが考えられた。
- ・このような状況から、オンライン活用の利点に関する理解をさらに深めてもらい、積極的に取り組んでもらえるよう助言等していく必要があるほか、関係機関が行う就職に関する様々な取組の生徒に対する効果的な周知方法について課題があると感じている。
- ・来年度以降のオンライン活用に関する取組については、今回の結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症流行の影響や生徒への周知方法など諸処の事情や課題を勘案し、皆様とも連携を図りながら実施について検討していきたい。

(5) 各機関における令和2年度の取組内容と令和3年度の取組予定について

■石巻商工会議所

- ・石巻商工会議所では平成30年度に雇用推進委員会を設置している。設置目的は、石巻地域の人材定着、労働力の確保並びに雇用の安定を図り、地域産業の振興と石巻市の経済発展に寄与することとしている。
- ・令和元年度はインターンシップ事業及び企業ガイドの作成を実施した。
- ・令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響によりインターンシップ事業を中止している。また、令和元年度に作成した企業ガイドを令和2年度の就職活動に活用してもらうため、各高校に配布した。その他、企業向けに労務管理セミナーを開催した。
- ・令和3年度の商工会議所に関する予定は、働き方改革関連法施行に伴う労働環境の改善、少子高齢化・人口減少時代における労働環境の整備、高校大学との連携強化とインターンシップ事業を通じた就労体験、地域産業のPR、婚活事業の展開、事業承継と次世代の担い手の育成、健康経営の啓蒙普及、外国人労働者受入れに関する調査研究について取り組む予定である。
- ・令和3年度の雇用推進委員会の事業予定は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、プラットフォームと連携し、インターンシップ事業を実施したい。また、新年度に企業ガイド作成に向けて市内企業に対し調査をする予定で地元企業の雇用に関する最新データを掲載するとともに、高校生に石巻市の産業や多くの市内の企業を知ってもらい、地元就職活動に活用してもらえそうな企業ガイドを作成したい。

■石巻信用金庫

◇令和2年度の実績

- ・ハローワーク合同企業説明会が中止になったことにより、桜坂高校の独自企画としての企業説明会に参加し、企業説明をした。
- ・例年実施している高校生の事業所訪問受入れとして桜坂高校2年生5名を受入れした。テーマは事業所とSDGsのつながりについて。
- ・その他市内各高校向けに企業説明会を個別に開催した。
- ・しんきんマネースクールを実施。今年度は石巻市桃生小学校5、6年生対象。平成20年から25回実施し、798名の小学生が受講している。
- ・IS奨学研究会研究発表会・研究費贈呈式を実施。石巻専修大学と平成7年から継続して実施している。研究員3名による研究課題の成果発表及び次年度研究費の贈呈をした。

◇令和3年度の予定

- ・今年度と同じような取組を予定しているが、調整がつけば産業人材育成に関する取組に積極的に協力していきたい。

■石巻専修大学

◇大学3年次進路ガイダンス関係について

- ・令和2年度4月における取組については対面式により実施していたが、6月以降は全てオンライン形式での実施に切り替わった。
- ・例年であれば石巻グランドホテルや仙台市内の施設を利用して企業説明会を実施していたが今年度はオンラインによる説明会となる予定である。3月には3回、4月には13回、5月には4回ほど実施予定。
- ・今後はオンラインでもしっかりと就職活動できるように学生を支援していきたい。

■石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議

◇宮城県水産高等学校の令和2年度の取組について

- ・今年度は校長会関係も中止しており、他校の情報が入りづらい状況にあるため、当会議では本校の取組について説明する。
- ・例年の取組では、5月に3年生を対象とした進路ガイダンス、7月には3年生を対象とした分野別セミナー、海技セミナー、2年生を対象としたインターンシップ、9月には3年生を対象とした外部講師を招いての模擬面接、11月には1年生向けのキャリアセミナーを実施している。3月には2年生に対して就職に伴う様々な面談等を計画していた。しかし、今年度は新

型コロナウイルス感染症流行の影響によりことごとく中止となっている。

- ・そのような状況で来年心配していることとして例年2年生でインターンシップをすることにより次年度の就職活動をする上で大きな礎となっていたが、今年度できなかったため生徒にとって進路の選択について影響があることを懸念している。
- ・海技セミナーについては、オンラインでの実施やコロナ対策をした上で実施した。
- ・令和3年度は、例年のスケジュールでの実施のほか、例年12月に実施していた学習旅行という就職に関わるような企業の実習を含んだ形の外部での学習旅行を行っているが、来年も冬の時期でコロナウイルス感染症流行の可能性が高いことから、インターンシップと実施時期の交換を行った。12月頃、製造業関係であれば受入れをしてくれる可能性が高いのではないかと考えている。

◇宮城県水産高等学校における進路状況について

- ・本校は8割強が就職で県内外、様々な企業等に就職している。
- ・一部サービス業や旅行業関係、宿泊業関係は非常に厳しい状況だったが製造業関係はなんとかある程度求人をお願いことができ、地元の就職先を得ることができた。
- ・来年の就職に関わる2年生はちょうど震災時小学1年生だった。多感な時期に震災を経験したこともあり、この地区に就職したいと考えている生徒が非常に多い。一方で地元企業が色々な面で良い条件を出してくれるかが課題と考えている。本校では石巻地域の魅力を伝えている。東部地区は素晴らしい自然に恵まれ、素晴らしい産業もある。産業人材育成に関するこのような会議の機会が多いに機能してくれればと願っている。

■石巻公共職業安定所

- ・今年度は7月の合同企業説明会や5月の新規高卒者対象求人説明会、就職対策連絡会議等が新型コロナウイルス感染症流行の影響により見送りとなり、WEBや書類送付等代替措置となった。
- ・来年度は例年どおり開催する方向で動いている。まず、新規高卒者対象求人説明会は5月21日（金）石巻市水産総合振興センターで開催予定である。午前・午後の2部に分け、コロナ対策をした上で行う。就職対策連絡会議も開催予定。高校生のための合同企業説明会・企業と高等学校教諭の就職懇談会は7月14日（水）に開催予定。例年は60社程度。こちらも午前・午後の2部構成とし、30社ずつに分けることとなる。企業と高等学校教諭の懇談会については、時間の都合上、実施が難しい可能性があり、説明会の中で先生方に企業まわりをしていただくことになりそうだ。
- ・今年度の推薦開始日と選考・内定開始日は10月となり、1か月後ろ倒しとなっているが来年度は例年どおり9月に開始する予定。
- ・新規高卒者合同就職面接会は10月21日（木）に開催予定。例年60～70社参加となっているが、新型コロナウイルス感染症流行の影響次第で40社等少なめの募集となる可能性がある。今年度は39社参加し、参加生徒39人中17人が面接することとなり、そのうち14人が内定を得ることができている。参加生徒の内定率が高かったことから来年度も引き続き実施する予定である。

■東部教育事務所

- ・学校教育の主な取組として①知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成、②発達段階に応じた「志教育」の推進として特に自然や歴史、産業などの地域の教育資源を活用し、郷土に対する理解と関心を高めるとともに、郷土愛を深める体験活動の推進や将来の社会人としてよりよい生き方を主体的に追求させる教育活動について展開している。
- ・社会教育については、①主体的に地域づくりに取り組む意識の醸成に取り組んでおり、関係機関と連携した情報の集積や発信として「石巻地域産業学習ハンドブック」、「石巻地域産業学習マップ」活用の推進をしており、東部管内の小・中学校に配布し、校長会や教頭会、各研修会等で活用を促している。石巻地域産業学習ハンドブック、「石巻地域産業学習マップ」は東部地方振興事務所地方振興部と石巻専修大学が作成したものであり、管内企業70社が掲載されており、学校と企業を繋ぐ大きな役割を果たしている。
- ・実践事例として①職場体験・職場見学、②職業人や先輩等の話を聞く会・キャリアセミナーの

実施状況については、コロナ禍で大きく減少した。昨年度の実績としては、ただし、職場見学は小学校で98%実施している。職場体験は中学校で91%が実施している。

- ・これらの取組における成果としては、働くことについて真剣に考え、職業にはそれぞれの魅力や苦労があり、日頃目にするのできない仕事の内容や気配りに気付くなど児童生徒の望ましい勤労観、職業観を育むことができるようになってきていると思っている。2つ目として人や社会と関わる中で児童・生徒の社会性、自己肯定感を高め、新たな自分の発見や成長に繋がるとともに児童・生徒の夢を育むことができると思っている。3つ目として地域の特性や魅力を再発見させ、地域を愛し続けようとする心を育むことができると考えている。これらのことから次年度についても大きな成果が期待できるので、各学校で計画を立てているところである。

■石巻高等技術専門校

- ・来年度の入校生の状況だが、現在までに第二次募集まで終了しているところ。自動車整備科については定員20名に対して19名、金属加工科が定員20名に対して3名、木工科が定員10名に対して5名という状況。現在3次募集中であり、関係のある方々にご案内いただきたい。
- ・入校生の確保が大きな課題。技能の振興とPRに努めていきたい。

◇令和2年度の取組について

- ・石巻北高等学校飯野川校に対し、夏休みの期間を利用して、本校の体験をしてもらった。
- ・石巻市立桜坂高等学校に対しては、「さくらプロジェクト」により体験学習を実施した。例年2日間に渡り実施していたが今年度は新型コロナウイルスの影響により1日となった。
- ・加美農業高等学校には、インターンシップ事業に協力し、自動車整備科の体験をしてもらった。これらの高校への取組については令和3年度も引き続き実施していきたいと考えている。
- ・技能ふれあい祭りについては新型コロナウイルスの影響により中止。来年度は状況をみながら実施について検討していきたい。
- ・親子ハロートレーニングフェスティバル、オープンキャンパスについては実施。

■石巻市

◇令和2年度産業人材育成関係事業実施状況について

- ・石巻合同企業説明会を開催。ハローワーク石巻と石巻サポートセンターと連携して実施。
- ・職場見学会については、企業見学バスツアーを計画していた。残念ながら新型コロナウイルス感染症流行の影響により中止となってしまった。内容については、高校の生徒及びその保護者を対象に地元企業の職場見学を実施し、実際の職場環境や業務内容を理解していただき、就職に繋げていくというもの。また、高校の進路指導担当を訪問し、人材不足となっている介護・福祉に関する就職について相談させてもらっている。進路選択については親の意見が強いという話があった。ターゲットについては、3年生を対象にしたのでは遅いということで2年生を対象に冬休みや春休みに実施することを計画していた。
- ・しごと相談会については、石巻市の介護・福祉及び水産加工が人材不足であるため、同業界で働きたい方に対して相談できる場を提供。ハローワーク石巻と石巻サポートセンターと連携しながら11月に実施した。
- ・会計年度任用職員の募集を行った。昨年3月卒業した方で新型コロナウイルス感染症流行の影響により内定取消しされた方を対象に10名募集したところ1名応募があり採用した。
- ・新型コロナ関係として雇用調整助成金利用促進補助金を実施している。

◇令和3年度産業人材育成関係事業実施予定

- ・今年度の取組については引き続き令和3年度も実施予定。新型コロナウイルスの状況をみながら実施について検討する。

■東松島市

- ・今年度東松島市企業ガイドブックを発行。今までも発行していたが大幅に内容変更して44社掲載。主な変更点としては、先輩からのメッセージを入れたこととSDGsの視点を結びつけたこと。市内成人式で配布した。また、市内公共施設にも配架している。市外でもご希望があれば配布していきたい。

- ・その他今年度は8月にみやぎ工業会主催で響工業団地に高校の教諭を招いた企業見学会があった。また、市内で合同企業説明会を石巻サポートセンターが実施。例年よりも来場者数が多かった。来年度も実施予定である。

(6) 石巻地域産業人材育成プラットフォームにおける令和3年度の事業予定について（宮城県東部地方振興事務所）

◇キャリア教育育成方針と石巻地域産業人材育成プラットフォーム施策との関係について

- ・資料6については一般的なキャリア教育の体系において、小学校から高校・大学の期間中、どの時点でどのような能力を備えるべきかをまとめており、当該事業では、卒業後すぐに就職する高校生と大学生に焦点を当て、地元就職に向けた取組を進めていきたいと考えている。令和3年度の当該事業を推進していくことにより、資料6の太字となっている能力の習得に合わせ、地元就職意識の高揚が図られればと考えている。

◇令和3年度事業について

- ・令和3年度の事業予定については、管内企業の人材不足を解消し、石巻地域における持続可能な産業の発展を目指すため、取組内容に記載のとおり、3つの事業を推進していきたいと考えている。なお、これらの事業については、現時点で県予算により推進していくこととしているが、具体的に取り組んでいく際は、本プラットフォームの下部に設置している「石巻地域産業人材育成・定着推進会議」においてブラッシュアップを図るとともに、関係機関がそれぞれ役割を担い、協働して進めていく体制を構築したいと考えている。

◇個別事業について

「就職意識調査の実施・分析等」

- ・管内高校3年生の保護者を対象とした当該取組については、今後新たな地元企業就職率向上を図るための具体的な取組内容を検討するため、高校生の就職に大きな影響を与える一部を除く石巻管内高校の3年生の保護者を対象とした調査を実施するもの。なお、本調査は、高校3年生及び保護者それぞれに対する調査結果を分析し、地元就職率向上のために必要な効果的な新たな施策について皆様とともに検討し、それを実行に移すための基礎になる重要な調査と位置づけている。

「石巻専修大学を対象とした地元就職伴走型支援」

- ・主に石巻専修大学3年生の中から対象者を絞り込み、企業とのマッチングやキャリアカウンセリング支援を行うなど、地元就職に向けたきめ細かな支援を行おうとするもの。この他、早い段階から地元就職に対する意識を抱いてもらうため、大学入学直後からの地元企業への理解促進や、地元企業の認知度向上を図ることも重要と考えており、石巻専修大学をはじめとする関係機関と具体策を検討していきたい。

「企業の魅力発見！交流事業」

- ・希望する高校の1～2年生や保護者を対象に、普段は触れる機会の少ない石巻地域の魅力ある産業や企業を知ってもらう地元企業の若手社員による職場紹介や、企業訪問による交流会を実施するもの。その中で、新たな取り組みとして、地元就職促進のためのWEBページ等を作成したいと考えている。これまでも、皆様の協力を得ながら、地元企業の魅力などを伝えるよう取り組んできたが、企業の魅力だけではなく、産業そのものを理解してもらう必要があるのではないかと考えている。

- ・なお、これらの取組については、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない現段階においても実施可能と考えているものだが、今後の感染状況に応じては、一部縮小やさらなる強化も念頭に置いているため、あらかじめご理解いただきたい。
- ・冒頭でもお話しさせていただいたとおり、これらは県だけで取り組むのではなく、皆様と連携を密に図りながら、本プラットフォームとして取り組んでいきたい。

(7) 意見交換

■座長（東部地方振興事務所）

この意見交換では、これまで各機関からご説明いただいた内容についての質問や、先ほど事務局より説明させていただいた令和3年度における本プラットフォームとしての事業予定に対する意見・要望のほか、人口減少社会における石巻地域の産業人材の育成や確保に関する全般的な提言など、幅広い意見をいただきたい。

なお、頂戴した意見等については、本プラットフォーム会議の下部に設置している「石巻地域産業人材育成・定着推進会議」などで検討し、具体的な施策立案や事業構築に繋げていきたいと考えているため、積極的に発言いただきたい。

■石巻専修大学

新型コロナウイルス感染症が流行する前までは、企業側の採用意向が強かったが、学生が来てくれないという状況であった。今年度は地元就職志向の強い学生が多いが、受入れる素地のある企業が少なく感じられる。企業側はどのように学生に訴えれば興味を持ってもらえるのか考える必要があること、4年制の学生を採用したときにどのように活躍してもらうのかを考えて欲しい。経済的にもかなり厳しくなっている来年度4年生になる学生は就職について大変苦勞するだろう。

大学側としては、地元就職について考えてもらうことは良いこと考えている。産学官連携して若者を石巻地域に取り込むことは重要。自治体の存続にも関わる。新型コロナウイルスをマイナス面で見るとは無く、プラス面を考えることも必要。地方の方が安全であることもプラス面である。

オンライン関係の活用が重要。いかに良い情報を出していくかシステム構築等も検討すべきである。

■石巻商工会議所

自分の就職の頃を思い出すとやはり初任給・賞与を最初に調べ、その次に企業の知名度（上場企業か非上場企業か等）を調べた。

地元企業（中小、零細企業等）における求人については、待遇、初任給、年収がいくらを含め、将来の年収や待遇等が見えないと魅力を感じてもらえないのではないだろうか。そのような情報や目安となるような数字を出していくことが必要。東松島市の企業ガイドブックには、会社の従業員数や創業年数は分かるが、売上や社員の年収等数字的なものがわからない。そうになると、なんとなく決めるしか無くなってしまい、結局知名度の高い企業に行ってしまうのではないだろうか。

■石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議

石巻地域の中学生が減少していることや仙石東北ラインにより石巻の高校よりも仙台の高校に進学することが多くなってきており、石巻地域の高校の生徒数や倍率が減少してきている。

本校は、亘理や岩沼等、他地域の生徒をどのように呼び込むか考えているところである。しかし、石巻地域に生徒を呼ぶための住環境が整っていない。また、南三陸町については高校も少なく若者が止まりにくい状況になっているため、石巻地域に来てもらえるような対策をあればと思っている。インフラの整備も含めた若者を呼び込める地域としていく必要がある。

石巻地域に人を呼び込む取組については、もっと何かできるのではないかと考えている。

石巻の企業が待遇等含めて人材確保について検討してもらい、一時的には赤字となるかもしれないが、将来性を感じさせる企業となってもらえればと願っている。

■東松島市商工会

東松島市の企業ガイドブックに関しては企業紹介、年収、何に取り組んでいるかが分からず、物語が無いように見受けられる。現状のものしか分からない。学生にとって魅力が感じられないものになっているのではないだろうか。

我が社である橋本道路についても道路工事ばかりではなく、太陽光発電事業の展開や東北大学と10年近く連携して藻類の研究をしている。また、筑波大学とも連携している。日本初のフ

リーズドライ製品についても事業展開している。このように前向きなことやっているのに企業ガイドブックで紹介できなかった。これからは企業の魅力についてしっかり伝え、将来目指していきたい目標や経営者の夢についても学生に知ってもらいたいと思った。これからは大いに努力していきたい。

■事務局（東部地方振興事務所）

就職を考える生徒に対し、先程皆様からお話いただいたような情報を充実させるため、石巻地域企業と連携していきたい。先程事業説明で紹介したWEBページで掲載することについても検討し、有益な情報を発信できればと考えている。

■石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議

県で産業教育フェアを実施していたが事業の見直し等もあり、今後どうなるかわからない状態となっている。一方、東松島市商工会のお話で非常に素晴らしい企業の取組があることが分かった。産業教育の成果や企業の成果を東部地方振興事務所又は石巻地域産業人材育成プラットフォームによって魅力ある東部地区産業の祭典の開催等について検討していただきたい。小・中学生にも見てもらえれば、石巻地域の定着に繋がるのではないだろうか。

■座長

石巻地域産業人材育成・定着推進会議でも検討課題としたい。

■石巻専修大学

起業に関する働きかけも必要では無いだろうか。企業に就職する選択肢以外も必要。東京の専修大学のゼミでは石巻で学生が起業するというテーマを検討している。石巻市や石巻専修大学と一緒に何かできないか考えている。起業について意識のある学生もいるため、石巻地区が学生にとって夢をかなえられる地域になってもらえれば。官と民による協力も必要である。

■東松島市商工会

企業の取組をうまく発信できなかったことは反省すべき点。橋本道路では三重大学、山口大学、筑波大学、東北大学と共同研究しており、十分PRできる事業がある。今後、PR等取組を強化していきたい。

■座長

様々なご意見ありがとうございました。皆様のお話の中で今、学生の地元志向が強くなってきているということ、学生を呼ぶためには、年収や待遇等明らかにしていくべきではないかということ、他地域から来た若者の住環境を整備して欲しいということ、学生にもっと企業の前向きなところをPRするべきではないかということ、石巻地域産業の祭典等を開いてはどうかということ、起業に関する人材の育成も必要であること等ご意見をいただいた。これらについては石巻地域産業人材育成・定着推進会議で議論していきたい。

－以上－